

27 よこ だけ
横 岳 (1339m) ・ 28 さかさがわだけ
逆川岳 (1183m)

地 域 南八甲田
2008年7月13日

[ルート] 沖上平 ⇄ 横沼コース ⇄ 横岳
[参加者名] CL H.NAKAMURA 他 10 名
[コースタイム] 横内 P 6:35 → 沖上入山地点 7:35 ~ 8:00 → 「十文」の木 8:55 →
横沼湿原分岐 9:35 ~ 9:45 → 横岳山頂を目指して肩を進む
11:45(引返す) → 昼食 12:00 ~ 12:35 湿原分岐 13:55 ~ 14:05
「十文」の木 14:35 → 登山口 15:20 → 横内 P 16:00

[山行記録]

予報通りの良い天気恵まれ、総勢11名が3台の車に分乗し、横内 P を計画より5分早く 6:55 に出発。城ヶ倉大橋を通過後トイレ休憩。軽食を摂り入山地点に 7:35 分に到着。身支度後コンパスの使い方を実習し、まずは横沼分岐に合わせて 8:00 に登山開始。2日前の雨で壁土が滑る。慎重に歩を進め 8:55「十文」の木で1本目の小休止。各自水分やアメ、チョコ等でエネルギーの補給。風もなく蒸し暑く、顔に当る笹がうっとうしい。小さい沢を何度か渡渉し(水はほとんど流れていなかったが)本格的な沢筋を登り始める。虫に刺されることもなく、



まずまずのペースで横沼分岐に 9:35 に到着。視界が開け、向かい側には、北八甲田の山々や地獄湯沢の赤茶けた谷がはっきり、くっきりと目に飛び込んでくる。一同から「ワー！！」と歓声があがり10分間の休憩。キンコウカ(黄)やイワイチョウ(白)、ワタスゲ(白)、ウラジロヨウラク(ピンク)などが目を楽ませしてくれた。もう一度山頂にコンパスを合わせて 9:45 藪こぎへと入る。200m位は樹林帯の中の踏み跡をたどりながら歩く。「横岳の肩をはずさないように！！」と H.N CL より注意があり、全員気を引き締めて前進。30分もすると、トップを行く H.N CL から疲れたー！！の一言。小休止後トップは E.T さんに交代。段々と笹の丈が高くなり、少し離れると前が見えなくなる。お互いに「オーイ」「オーイ」と呼び合い、女性軍からは「もう少しゆっくり！！」「早すぎるー！！」「少し待ってください」の声がたびたび掛かる。30分毎位に小休止しながら先頭を交替し、約2時間悪戦苦闘を続けるも頂上はまだまだ先。笹を踏みつける足も上がりにくくなり、かき分ける肩や腕もしびれるような感じになって来る。これ以上の前進は困難として 11:45 分に往路を引返す。15分下がった所の松の根元に陣取って昼食。木漏れ日が差し込み、時折涼しい風も吹いてホットさせられる。それにしても疲れた。まさに体力勝負とはこのことか。腹ごし



らえをし、水分も十分に補給し、少しは元気になって予定よりも早く下山できた。H.N CL より「頂上を踏めなかったのは残念であるが、皆よく頑張った。この体験を次の機会に役立てたい」と挨拶があり、解散となった。皆様お疲れ様。車の運転の皆様、感謝、感謝。

(反省と教訓)私はへトへトに疲れて、何度も転び他の会員の皆様に大変お世話になりました。下山後2日間位は筋肉痛に悩まされました。でも初めて「楽しい」と感じた山行でした。

報告 E.FUKUI

29 くしがみね 櫛ヶ峰 (1517m) ~ 30 しもだけ 下岳 (1342m)

地域 南八甲田
2007年4月29日

[参加者名] CL H.NAKAMURA 他3名
[コースタイム] 横内駐車場 6:00→睡蓮沼(車デポ)→沖揚平(シェルター出口)6:50 登山開始 7:15
→横岳 8:50(30分視界不良で停滞)9:20 発→櫛ヶ峰 11:20→下岳 12:00(昼食 30分)12:30 発
→櫛ヶ峰 13:30→ニセ駒鞍部 15:15→睡蓮沼 15:40→沖揚平→横内駐車場 16:30

[山行記録]

いきなり私事で恐縮だが、私の八甲田山行の中で主立ったピーク(北:大、小、前、赤倉、井戸、田茂岱、高田、硫黄、雛、石倉、黒森南:櫛、駒、赤倉、乗鞍、猿倉、横、逆川、南沢)で最後に残ったのが下岳です。今回 H.N さんの協力で、念願が叶って下岳にチャレンジすることが出来ましたので、その記録を報告します。

今回の山行は6時に横内の駐車帯に集合、車2台に分乗して一旦睡蓮沼の駐車帯に車1台をデポ。その後沖揚平のシェルター出口を目指す。身支度を整えて7:15分に出発する。M.Kさんはテレマークスキー、他の3人は山スキーにシールを付けて先ず横岳頂上を目指す。雪は締まっていてシールは良く利くが、樹林帯の急登に息が続かない。今年初めての登山という Y.H さんは往年のキャリアからか(?)快調に先頭を進む。標高千メートルを超えたあたりからガスの中に入り、周りの視界が利かなくなる。ひたすら上を目指していたらいきなり平坦になって、気付いたら横岳頂上に着いていた。しかし、その時点では視界はせいぜい10メートル程度、コンパスをあわせながら先を行くとなると相当な困難が予想され、一同思案する。どうしても下岳に行きたい M.F は粘るが、他の3人は下山に傾いていた。かれこれ30分くらい頑張ったが風が強くて体温も下がってきたので、仕方ないとあきらめて、下山の支度を始めたところ、一気にガスが晴れ、南北八甲田が忽然と現れた。M.F の粘りが天に通じたのかと思える一瞬だった。その後、風は強かったものの下山するまで快晴が続いた。

・横岳の頂上を9:20分に出発。横岳東斜面は雪が締まっていて誰も滑った痕のない大斜面を H.N さんを先頭に豪快に滑り降りる。滑りは一瞬で終わり、再びシールを付け直して櫛ヶ峰を目指す。横岳から約2時間かけて急斜面をゆっくりと進む。最後の急斜面で睡蓮沼から登って来た登山者と一緒になるが、朝、車をデポした時一緒だった人達の様子。時間的には横岳で停滞した分が無ければこっちの方が早かったようだ。

櫛ヶ峰の頂上には11時20分に到着、記念写真もそこそこ下岳に向かう。スキーが重くて息の上がってしまった M.F はスキーをデポしてツボ足で、他の3人はシールの付いたスキーで下岳に向かう。3月に南沢岳から眺めた時は櫛から下岳の稜線はナイフのように切り立って見えたが、実際の稜線は広々としていて安心だ。約40分下岳に到着し、丁度12時になったのでお昼にした。そろそろ出発という時に女性2人組が現れる。話を聞くと登山の登山教室に参加したことがあるとか。横岳まで登ったら、その先に踏み痕が見えたのでそのまま下岳まで付いてきたと言う。勇気があるというか地図も持たずに無謀というか。でも、我々が沖揚平に車を回して荷物を整理していた時に無事に下山してきました。

再び櫛ヶ峰に戻って、大斜面を滑降する。しかし、日中の好天が災いしたのか、朝の横岳とは違って雪が柔らかい。雪に足を取られながらの大滑降となった。でも、大岳に匹敵する大斜面の滑降を堪能しました。あとは、ひたすら睡蓮沼に戻るだけだが、これが結構長い。駒ヶ峰の北側を巻いてニセ駒を目ざし、そこから高田大岳をめがけて下る。H.N さんが時々GPSで目標をチェックしてくれる。櫛ヶ峰を出発して2時間10分、久々の大縦走に一同満足し皆無事睡蓮沼に到着した。



反省と課題

今回の山行は、長時間の行程が予想された事から出発時間を早めたため、日没まで2時間の余裕を持って下山できた。こうした時間的な余裕から横岳での停滞時間を持って、結果として下岳登頂が達成できることになったのではないかと考えている。残雪期しか登れない山なので、今回をはずすと来年再チャレンジというところだっただけに、参加者の協力に感謝しています。

報告 M.FUKASAWA